

玩具②

当館の漢族玩具資料には、人形類が数多く含まれている。このうち2013年4月時点で常設展示されているものは、「泥娃娃」「影絵人形」「指人形」「糸あやつり人形」である。そこで、今回は「泥娃娃」と「指人形」を紹介したい。

「泥娃娃」は子授けを祈願するための人形である。「娃娃」は赤ん坊、人形の意味なので、泥娃娃はすなわち泥人形である。型抜きした粘土を乾燥させ、表面を彩色している。大半は焼成しないため非常に壊れやすい。

中国では、道教の女神である註生娘娘チュウシヨウニヤンニヤンが広く信仰されている。子供を望む女性は、まず註生娘娘が祀られている娘娘廟に参拝し、神像の前にある泥娃娃を貰い受ける。そしてその首に赤い糸を懸け、自宅に持ち帰る(廟前の露店で購入して一定の期間神前に供えた後、持ち帰ることもある)。望み通り子供を授かれば、持ち帰った泥娃娃を倍にして元の場所に返すという習俗が約半世紀前まで行われていた。

図1の泥娃娃は、牡丹の花を抱き、蓮の花の上に座っている。牡丹は「富貴」の象徴である。蓮は「連」と同音になることから「連続」の意味がある。つまりこの泥娃娃は、「連生貴子」(富貴をもたらす優秀な子供がつつぎつつぎと生まれる)を表している。その他、魚(裕福になる)・石榴しきりう(子宝に恵まれる)・桃(長寿)などの吉祥図案を描くこともある。



図1 子授け祈願人形「泥娃娃」20世紀前期、中国遼寧省大石橋にて蒐集 高さ24.5cm

本品は大石橋だいしやつきょう(現在は遼寧省に属する都市)で販売されていた。付近には中国東北部最大の娘娘廟があり、註生娘娘の誕生日には盛大な祭が行われた。泥娃娃の制作は、この祭での販売を目指して3月頃に開始される。制作は零細な農民や小手工業者が、副業として行うケースが多い。完成品は作者自身が販売する場合と、別の露天商に卸す場合とがある。

泥娃娃制作による収入はごく僅かで、あまり儲かるような仕事ではなかった。そのため、日本人が中国東方北部に入植を始めた1930年代はすでに職人が激減し、入手は非常に困難であった。しかしその素朴な表情は、多くの日本人、特に郷土玩具コレクターたちに深く愛された。当時中国大陸に在住していたコレクターたちは、最も興味をそそられる玩具の一つとして泥娃娃を挙げていた。

続いて「指人形」について述べる。一説によると、中国の指人形劇は現在の福建省南部を起源とし、その後各地へ広がったとされる。台湾では「掌中戲」または「布袋戲」等の名称で親しまれ、明清時代に福建省・広東省付近から移住した人形遣いたちによって伝えられた。かつては神々の祭礼時や、冠婚葬祭などの際に演じられることが多かったようである。

図2はその台湾で制作されたもので、長い眉と舌を持つ「白無常」の指人形である。「謝將軍」「七爺」とも呼ばれる「白無常」は城隍神(都城の守護神)の部下で、死者の魂を城隍神の元に

連れていき、生前の行いに対する裁判を受けさせる役割を担う。城隍廟では、同じく城隍神の部下で、黒い肌をした小柄な「黒無常」(別名「范將軍」または「八爺」と対で祀られている姿がしばしば見られる。

指人形の胴体部分は、袖付きの上衣に似た形状の綿袋になっている。しかしその上に衣装を着ているため、外部から綿袋はほとんど見えない。首の部分には穴があり、先端に縫い付けられた頭部まで指が届くようになっている。頭部は木彫で、首の付け根で胴体の袋に縫い付けてある。木彫の上から黒・赤・肌色等の漆塗りを施し、首の内部には指を入れるための細長い穴が開けられている。顔は非常に表情豊かで、頭髪と髭は人間の髪の毛で作られている。また、3cm以上ある木製の長い舌は、頭部に入れた指の先で根元を押ししたり引いたりすることにより、自在に出し入れができる。



図2 指人形「白無常」推:20世紀前期、台湾屏東県にて制作 高さ38.5cm

脚部は黒い厚底の長靴のみが木彫である。股から足首までの部分は、2本の細長い綿袋に糊のみがらのようものを詰めて脚とし、その上から橙色の布を被せ、ズボンを穿いた姿を表現している。これらは脚の付け根で胴体の袋に縫い付けられている。

腕部は左右とも上腕部・前腕部がなく、手の部分のみが木彫で、胴体の袋の袖に直接縫い付けてある。握りしめた拳の中央には穴が開けられ、棒状のものを持たせることができる。2008年10月に日中友好会館(東京都文京区後楽)で行われた「漳州市木偶劇団」(福建省の公立人形劇団。1951年設立)の上演時には、同様の構造を持つ武将役の人形が槍等の武器を持って振り回す場面が見られた。

指人形の動かし方についてであるが、前述の劇団では、袋の下から片手を入れ、人差し指を頭部、親指を左袖(左手で演じる場合は右袖)、中指・薬指・小指の3本を反対側の袖にさし込む方法が採られていた。

当館には上記資料の他、数十体の指人形および劇を演じるための舞台(図3)や台本が収蔵されている。その一部は1階の「中国・台湾コーナー」に展示中である。



図3 指人形劇の舞台 推:19世紀後期、台湾屏東県にて制作 幅127.3cm 高さ132.0cm